

報告

2010 年度日本語力テスト実施報告

岸江信介¹⁾ 仙波光明¹⁾ 堤 和博¹⁾ 村田真実²⁾ 岡部修典²⁾ 清水勇吉²⁾

¹⁾ 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 ²⁾ 徳島大学大学院総合科学教育部

(キーワード：日本語力，診断テスト，分析)

A Report on Implementation of a Japanese test in 2010

Sinsuke KISHIE¹⁾ Mitsuki SENBA¹⁾ Kazuhiro TSUTSUMI¹⁾ Mami MURATA²⁾ Syusuke OKABE²⁾ Yukichi SHIMIZU²⁾

¹⁾Institute of Socio Arts and Sciences,The University of Tokushima

²⁾Faculty of Integrated Arts and Sciences,The University of Tokushima

(Key words: Japanese Ability, Japanese test, Analysis)

1. はじめに

大学生の日本語力の低下傾向が指摘¹⁾されて以来、全国の大学で日本語力テストをはじめ、日本語力向上のための取り組みが進められつつある。昨今、全国の大学では教養教育でも英語力とともに日本語力を重視したカリキュラムが組まれる傾向がある。学士力養成や就業力育成において外国語とともに日本語のコミュニケーションスキルの向上が問われる所以であろう²⁾。日本語力は、コミュニケーション能力の根幹をなし、「読む・聞く・書く・話す」の表現と理解の基礎学力である。

新入生に対して大学入学時点で日本語の基礎学力を把握しておくことは、学士力や就業力を保証していく上での最初の取り組みでもあり、意義深いものといえるであろう。

平成 22 年度、本学では入学時のオリエンテーションの時間を利用し、日本語力テストを実施した。平成 20 年度から継続して実施しており^{3),4)}、本年度で 3 回目となる。[資料参照]

2. 第 3 回日本語力テストの実施

日本語力の目安となるジャンルは、漢字、敬語、文章表現、ことばの意味、語彙、文法の六つの領域からなり、これらの能力をはかるために各領域に即した問題を提示することで日本語力を測定しようとするのが目的である。

今年度のテストの大きな特色として、過去 2 年間において行ったテスト問題の数を約 1.5 倍に増やして実施したことが挙げられる。問題数を増や

すことにより各ジャンルについて複数以上の問題設定が可能となり、日本語力に関わる総合的な力を測定できると考えたからに他ならない。

今年度のテスト結果は、前年度以前の結果と比べて全学的には平均点が低下したが、問題数を増やしたことがその原因なのかどうかを検討したい。本年度の学科別解答者を表 1 に示す。

表 1 学科別解答者数

解答総数:1,327名			
総人： 104名	工機： 109名	工知： 84名	医医： 52名
総社： 104名	工化： 82名	工光： 52名	医医： 128名
総総： 66名	工生： 62名	工(夜)： 55名	歯： 54名
工建： 83名	工電： 104名	医医： 112名	薬： 77名

テスト問題のレベルは、高校卒業程度のものを選び、問題は東京書籍の許可を得て、石川ほか(2007)を利用した。問題の構成は 6 種類のジャンルを設定し、問題数は全体で 47 問である。各ジャンルの内容を以下に示す。

表 2 出題ジャンルの内訳

問1 異字同訓(漢字)	6問
問2 手紙文における敬意表現(敬語)	5問
問3 基本動詞に対応する尊敬語(敬語)	5問
問4 慣用表現1(文章表現)	5問
問5 文脈に即した適切なことば(文章表現)	5問
問6 慣用表現2(文章表現)+意味	10問
問7 類義語と対義語(語彙)	6問
問8 熟語の構成(文法)	5問
計	47問

また、問7、8を加えるなど、前年以前の問題に改変を施していることを付記しておく。

3. 日本語力テスト結果と分析一

日本語力テストは特定非営利法人『日本語検定委員会』が毎年実施している『日本語検定』に準拠し、同法人が設定している7級から1級までのうち、3級からの出題を行った。このレベルは高校卒業程度レベルの日本語力としては、正答率70%以上が求められる²⁾。

日本語力テスト解答者全体の「成績度数分布」を図1に示す。

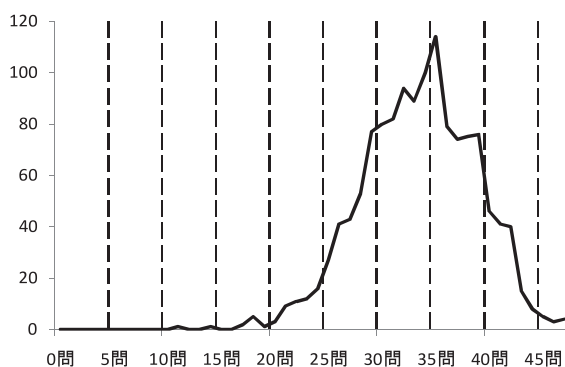


図1 成績度数分布

3.1. 文理比較

まず、文系・理系の観点から正答率について比較する。

前年に引き続き、文系を人間文化学科・社会創生学科とし、総合理数学科を含めた他学部のすべての学科を理系として扱う。

これまでこの比較では、総じて文系が理系よりも優位にたち、平均点で文系が理系を上回った。

以下、設問ごとにみていくことにする。

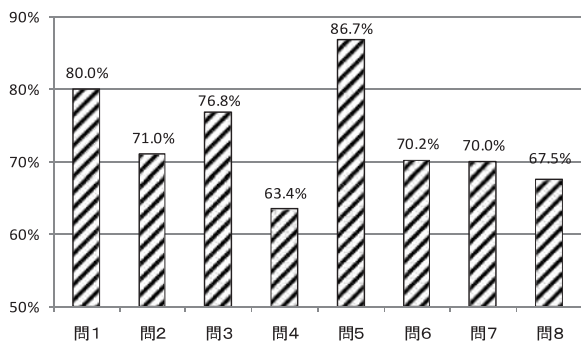


図2 文系 (総人・総社)

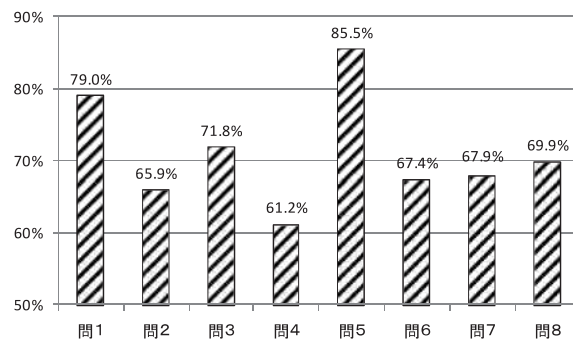


図3 理系 (総人・総社2学科以外)

図2・3は、問1~8の正答率をグラフで表したものである。全体の形として、文理で大きな違いが見られないのは例年どおりである。前年度以前は問5のみ理系の正答率が文系を上回っていたが、今回は新たに追加した問8が上回るという結果となった。問8は熟語の構成を見分ける問題であるが、これはどちらも70%に到達してないという点において、理系の正答率が高いというよりも文系が低いということになる。

なお、例年同様、問2・3の敬語に関する設問に文理の差が大きくみられ、理系の学生は文系の学生よりも敬語の運用に問題があるだろうということは変わらない。

ただ、全体的にみれば文系と理系の正答率の差は前年度以前と比較して縮まっているため、文理の差は僅かながら減少傾向にあると言える。日本語の運用に関しては、“文系の優位性”というものはなくなりつつあるのかもしれない。

3.2. 問1 異字同訓の使い分け

異字同訓の漢字を正確に使い分けられるかどうかを問う問題である。この問題は、例年80%前後の正答率を保っており、今回も全体の正答率は79.2%であった。

この問題では字義の理解、そして問題文の文意を正しくつかむことが求められる。対象とする漢字は、乱暴である、あらあらしいを意味する「荒」、おおざっぱであるという意の「粗」の漢字の組み合わせと、ひかえめにする意の「慎」、かしこまる意の「謹」の組み合わせである。

一問目は、アは金遣いがあらい、イは人遣いが乱暴、ウは組み方がおおざっぱであるという文意で、ア、イ、ウ三問合わせての平均の正答率は 83.6%であった。図 4 は正答率の平均をグラフ化したものである。工学部夜間主の不出来が目立つ。三問すべてに正解したのは 65.9%とやや低めで、2009 年度の 69.8%から若干低下している。例年どおりではあるが、特にアの正答率が低く、やはり「金遣いがおおざっぱ」であると誤って解釈されることが多いのではないかと推測される。

二問目は、アが飲酒を、ウはしゃべることをひかえることであり「慎」が正しく、イがかしこまって祝いの言葉を述べるという意味になり、「謹」が正しい。全体の平均は 74.7%で、一問目よりは正解しにくいものとなっている。図 5 は特に学科間の差が激しいアの正答率をグラフ化したものである。例年どおり学科間に正答率のばらつきが目立つ。栄養学科が 90%を超えているのに対して、多くの学科が 70%を切り、光応用学科や夜間主は 60%にも届かなかった。三問すべてに正解したのは 60.1%で、2009 年度の 60.6%とさほど変化していないことも含め、「つつしむ」という語の意味、そして字の使い分けに関する理解が乏しいものと考えられる。

問 1 を通して、6 問すべてに正解したのは、41.7%に過ぎなかった。字義の理解が十分ではないことが感じられる結果であろう。

3.3. 問 2 敬語

日本語力のなかで敬語は特殊な位置づけとなる。敬語は本来、対人関係上の上下関係や社会的心理的距離に応じて使用される待遇表現であり、大学卒業後、一般社会に出てはじめて本格的に運用を求められる。運用経験の少ない高校生にとっては具体的にどのような場面でのどのような敬語を運用すべきか判断する機会があまりなく、実際に運用したことが少ないという前提であくまでも運用の知識を問うという状況を理解しておくことが大事である。

さて、解答の結果をみると、問 2 は目上の人に宛てた手紙の中で適切に尊敬語・謙譲語を使用し、正しく敬意を表現できるかを試す問題である。

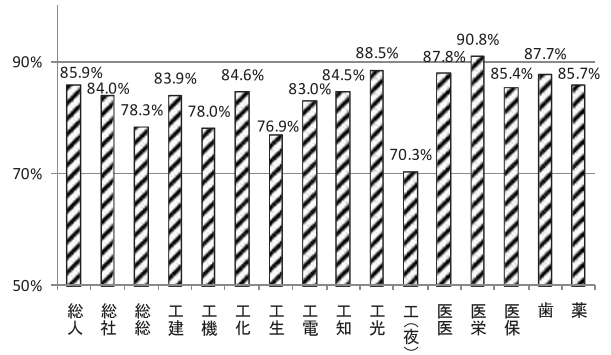


図 4 問 1-一の正答率

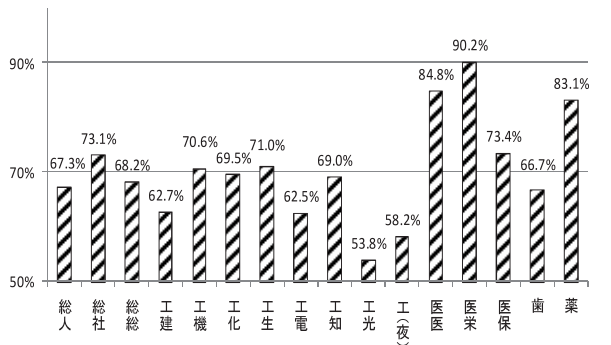


図 5 問 1-二-アの正答率

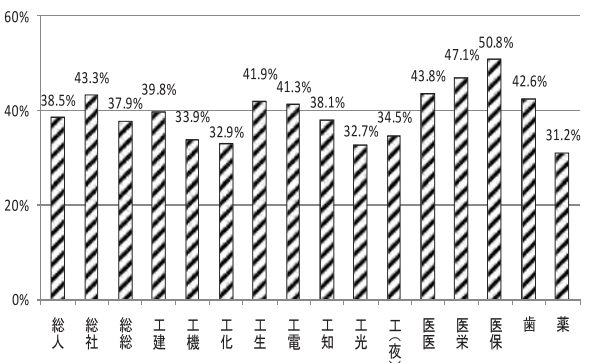


図 6 問 2-I の正答率

2009 年と同様の問題を用いてテストしたため、適宜前年と比較しつつ検討する。なお、問 3 についても同様に報告する。

解答者の解答を見ると、五問中二問 (ア・ウ) は正答率 80%を超えており、ある程度理解があると言える。2009 年に同一の問題でテストを行った結果、五問中三問に 80%を超える正答率があったが、本年はそれが二問に減っている。また、正答率が 50%を割る問題もあり、問題イについては

正答率 39.9%であった。

正答と、多かった誤答についてその内容を解説し、問題点を指摘する。正答率の低い問題イは、敬意を表す語を普通語に言い添える表現形式について、どれが正しいかを選択する問題である。正答は「ご出席くださる」だが、「ご出席される」「ご出席になられる」と解答する学生が少なくなかった。誤用の内、前者は謙讓語「ご～する」に尊敬の助動詞が接続した形、後者は尊敬語「ご～になる」に尊敬の助動詞が接続した形であり、どちらも二重敬語となっている。また、問題エは「おっしゃつ(て)」という選択肢を選ぶべきところであるが、「おっしゃられ(て)」を選ぶ学生の数500人を上回った。この誤用「おっしゃられ(て)」は尊敬語「おっしゃる」に尊敬の助動詞が接続した形であり、これも二重敬語である。

二重敬語を選択した理由は敬語使用に関してより丁寧な形式を求めようとする心理が働き、これまでにあまり経験がないと思われる恩師との書面でのやりとりの中で恩師に対しての敬語使用をもっとも丁寧とみられる形式を選択した結果によるものであろう。現代敬語においては二重敬語は過剰敬語であるとされ、一般に誤用であるという知識をもつ学生が少ないことが判明した。

問2全体の結果から二重敬語に対する理解に乏しいことが敬語の誤用を生んでいることが指摘できる。また、これは2009年の日本語力テストの結果でも同様の指摘がされており、本学学生が適切な敬語の使い方を習得するにあたって、二重敬語に対する理解を助けることが必要であると考えられる。

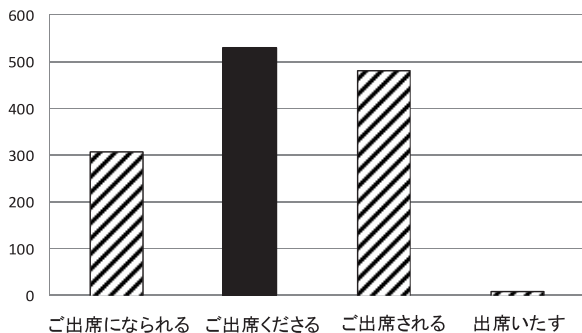


図7 問2-Eの結果

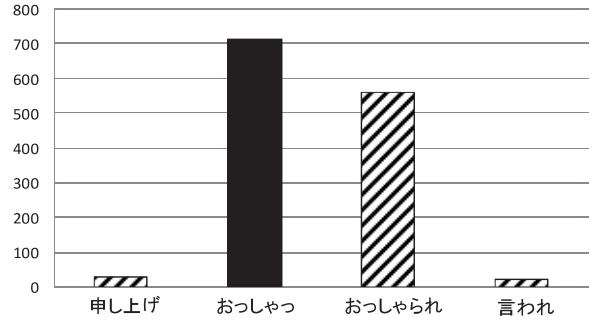


図8 問2-Eの結果

3.4. 問3 基本的な動詞に対応する尊敬語

問3は、基本的な動詞に対応する敬語を正しく使用できるかどうかを試す問題である。

解答者全体の正答率は一問目 74.7%、二問目 68.2%、三問目 53.1%、四問目 76.6%、五問目 90.6%となっており、五問目を除いて、基本的な動詞に対応する敬語について十分な理解があるとは言えない。

三問目については2008年及び2009年にも同じ問題を出している。2008年はすべての学科で50%以上の正答率が得られたが、2009年は工学部の全学科で正答率が50%に満たない結果となり、本年は電気電子工学科以外の工学部、総合科学部総合理数学科、医学部保健学科で正答率が50%以下となった。基本的な動詞の尊敬語使用の知識が年々低下する点が危惧される。

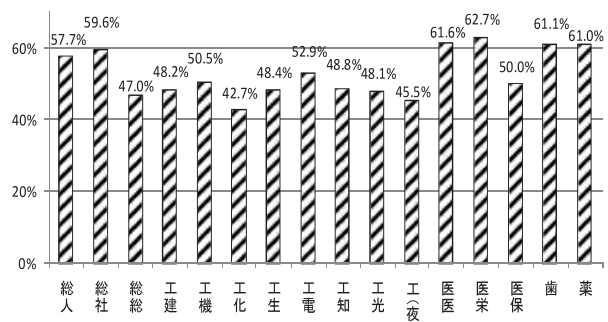


図9 問3-3の正答率

2009年同様、特に問3-3について、正答率が低かったのは先の述べたとおりである。これは、「食べる」という動詞に対応する尊敬語を選ぶ問題である。正答は、「召し上がつ(て)」であるが、「召

し上がられ(て)」を選ぶ学生が少なくなかった。「召し上がられる」は尊敬語「召し上がる」に尊敬の助動詞が接続した形で、これも二重敬語であり、誤用である。

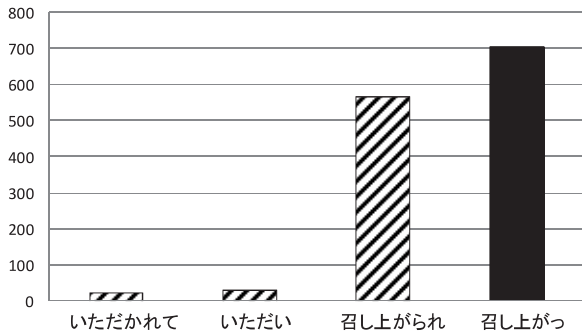


図10 問3-3の結果

敬語の問題については、2009年と同じく二重敬語に対する理解の未熟さが浮き彫りとなった。敬語は円滑なコミュニケーションを実現するために必要不可欠なものである。適切に運用することが求められよう。また、敬語を過剰に使用してしまうという間違いは、使用者本人には気づき難いものであるため、すでに指摘しているとおり、他者の指摘や今後の指導が必要である。引き続き日本語力テストを実施し、本学学生の敬語理解の現状を見つめ続けるとともに、結果に即した実践的な敬語指導を行うことが急務であると考えられる。

3.5. 問4 慣用表現

ここでは慣用的表現について分析する。全体的な正答率は61.5%と八つの設問の中で最も低い。日常生活でこのような慣用表現を使用しない、または慣用表現自体は知っていても、正しい意味を理解しないまま使用している可能性があるか。

項目ごとに見てみると、一問目「敷居が高い」の正答率が22.7%と極端に低い。これは今回の日本語力テストのなかでも最も低い正答率である。②と解答した解答者が60%近くに上り、「敷居が高い」という言葉が「(格式高く思えて、品が高くて)気が進まない」という意味で捉えられているようである。「ハードルが高い」と混同している可能性もある。

続いて二問目「わらにもすがる思い」だが、こちらは先ほどとは逆に正答率が82.5%と高い。その慣用表現の使用頻度、聞きなれている表現であるかということが正答率に大きく関わってきていると考えられる。

三問目の「気が置けない」は、正答率53.5%と半分程度であった。「気が置けない」の本来の意味は「気をつかったりする必要がなく、心から打ち解けることができる」といった意味であるが、現在は逆の意味で捉えられていることも多い。今回の結果にもそれが現れていると言えよう。

なお、四問目「二の足」は正答率85.7%と、二問目よりもさらによい結果であった。よく耳にする聞きなれた慣用表現であったということであろうか。

五問目「気が多い」の正答率は63.2%であった。誤答としては③と解答した解答者が多かったが、「気が強い」と勘違いをしたのだろうか。

慣用表現についてまとめると、二問目や四問目の高い正答率から考えて慣用表現は日常生活で全く使用されないわけではないものの、意味を誤ったまま使用されている場合があると考えられる。仮に誤用した場合にも、「相手も意味を間違っって認識しているため、誤用を会話中に指摘されない」など、意味を間違っのまま使用し続けているというようなケースも考えられる。

このような慣用表現は時代とともに、また地域によって意味が変化するものである。現在では誤用とされている言葉が、いつか正しい使い方として主流になっていく可能性もある。

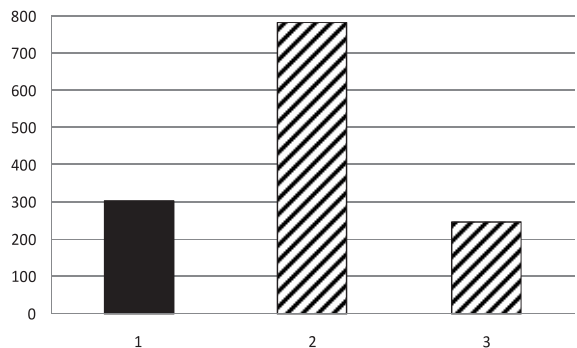


図11 問4-1の結果

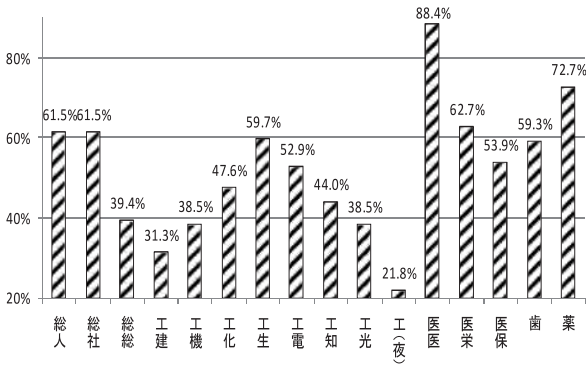


図12 問4-3の結果

3.6. 問5 文脈に即した適切な言葉

文脈に即した適切な語を選択する問いである。全体の平均正答率が順に 85.7%、72.3%、81.9%、90.7%、90.1%、93.4%となった。

一は適切な熟語を選択させる問いで、パソコンの機能を携帯電話の機能と代える（替える）ことが可能であるという文脈であるので、正答は「代替」となる。例年問5の中では最も正答率の低くなるものであり、2009年度は74.2%、2008年度は72.8%と、年による大きな変化はみられない。誤答の多くが「代行」であることも毎年変わらない。

二は「のどくびを押さえる」という慣用句についての問いである。他の選択肢は、「手首」「みぞおち」であったが、どちらも同程度の割合で誤答がみられた。どの選択肢も急所であることに変わりないが、「押さえる」という語との結びつきを無視して、意味のみに重点を置いて選択したものと考えられる。

三は十分に余裕があるという意味の「優に」を答えさせる問いである。正答率が高いものの、「余裕で」に誤答が集中した。「楽に～できる」というような意味合いで「余裕で」という表現が用いられることは、現代日本の口語においてはままあることではある。そこから誤って選択してしまったものであろう。

以下の四、五は本年度より追加した問題である。どちらも正答率が90.1%、93.4%とたいへん高かった。

四は両者ともに成り立たなくなるという意味の「共倒れ」の含まれる語を選択するもので、正答

は「共倒れになる」。他の選択肢は「共倒れている」「共倒れる」であるが、「共倒れている」と答えたのはわずか12名であった。語感も良いとは言えず、選択もしづらかったのではないかと推測できる。

五は「(の) ような」などの代わりに会話で用いられる助動詞「みたいな(終止形は「みたいだ)」の直前に来るものを選択する問いで、正答は体言である「お芝居」。「絶対ありえない」「何とも変わった」のどちらも体言ではないため誤答となるのだが、正答率から見ても誤用が目立つ域には達していないようである。

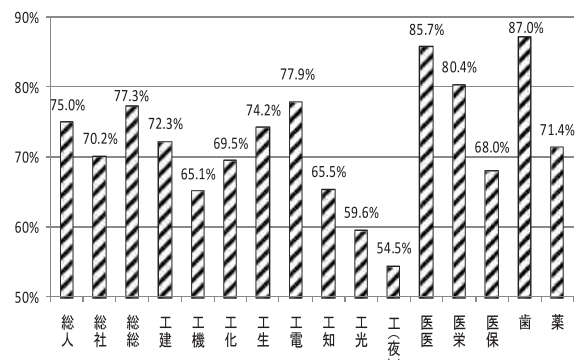


図13 問5-1の正答率

3.7. 問6 慣用表現

ここでは特定の動詞と結びついて用いられる言葉を取り上げており、それぞれの文章に続く動詞と、その慣用表現の意味を問う形になっている。問題によって正答率にばらつきが見られるため、ここでは正答率とともにどのような誤答があったかを重点的にみていく。

一問目の「物議を醸す」では正答率は66.1%。「醸す」の部分で「交わす」、次いで「振るう」とする解答が多かった。「交わす」に関しては「醸す」との韻の類似性から間違え可能性もあると思われる。「振るう」については、「熱弁を振るう」と勘違いしたのだろうか。

二問目の「論戦を交わす」では正答率は77.8%。「交わす」の部分で「張る」、次いで「振るう」とする解答が多かった。「張る」に関しては「論陣を張る」、「振るう」については上と同じ「熱弁を振るう」と勘違いしたのだろうか。「論戦を交わす」という表現を日常的に使用しないため、表現が混

交している可能性もあるか。

三問目の「弁明に努める」では正答率は89.9%。「努める」の部分で「振るう」、次いで「付す」とする解答が多かった。上二つの問題でもそうだが、議論に関わる質問に対して「振るう」という誤答が出ている。助詞の「～に」に「振るう」が続くには不自然を感じるが、なぜ「振るう」を選択したのだろうか。正しい表現を知らない解答者が、「言質」という字面から「会話」に関する内容と推測し「熱弁を振るう」などの表現からとりあえず「振るう」にしておこう、と選択した可能性もある。

四問目の「言質を取る」では正答率は34.4%。正答率が半分を大きく切っている。誤答としては「振るう」、「張る」が多く、次いで「預ける」、「醸す」、「畳む」、「囲む」、という解答が多かった。「振るう」及び「張る」は誤答数がそれぞれ200名を超え、抜きん出て多いものの、以下のそれぞれも50～70名と、誤答が比較的満遍なく選択されている。これはそもそも「言質」という言葉を知らない、または読めなかったため、意味を推測できなかった可能性も考えられ、その後によく動詞の違和感に気付けないまま不自然な解答を選択したものと思われる。

五問目の「不問に付す」では正答率は50.3%と半分程度であった。「付す」の部分で「預ける」とする解答が最も多く、次いで「畳む」とする解答が多かった。「不問」という単語から「問題にしない、問いたさない」という意味を想像し、そこから「問題の決着をつけない、持ち越す」という思考の流れで「勝負を預ける」の「預ける」を選択したのだろうか。

では続いて意味を問う問題について分析する。ここではどのような誤答があったかについて詳しくみていく。

まず一問目の正答率は67.0%であった。誤答として多かったのが「⑩世間の注目になること」と「⑫異なる考えを持つ者がそれぞれの立場から論じ合うこと」の二つであった。⑩は「物議」の意味を「世の中の話題」と捉えたのだろうか。

ここで二問目の結果も関連付けて分析してみる。二問目は正答率90.1%とかなり優秀な結果となっ

たが、誤答として多かったのが、一問目の正答である「⑬世間の議論や批判を引き起こすこと」であった。この一問目と二問目に共通しているのが、「物議」「論戦」という議論に関わる単語が含まれていることである。文意をとれば選択肢の中にある程度解答を絞り込むことは容易であったと思われる。

続いて三問目をみていく。三問目の正答率は85.2%で、誤答として多かったのが「⑮証拠になる言葉を得ておくこと」と「⑯後で自分の不利益にならないよう前もって手を打つこと」の二つであった。設問の「誤解を解くため」という部分に注目し、「証拠」「自分の不利益」といった表現がある選択肢を選択したのだろうか。

四問目の正答率は36.3%と、意味を問う問題の中では最も低い結果となった。誤答は「⑱自信のありそうな様子を言動に表すこと」と「⑲後で自分の不利益にならないよう前もって手を打つこと」の二つが抜きん出て多い。⑱は「交渉」、「言質」という単語から「言動」という単語を連想し、⑲は「交渉」による結果の「自分の不利益」を連想したのだろうか。動詞を選ぶ問いのほうで四問目の誤答としては「振るう」「張る」の二つが抜きん出て多かったが、交渉で「熱弁を振るう」「手腕を振るう」、不利益にならないように「予防線を張る」など、前後はわからないが間違った意味か動詞を選択した後に、自分の選択した解答の状況に当てはまる動詞か意味を適当に推測して選択した可能性もある。

またこの四問目の特徴として、上の二つの誤答以外にも、いずれも一定の割合で誤答が選択されてしまったということが挙げられる。この結果には「言質」という単語の理解度の低さが大きく関わっていると考えられよう。

最後の五問目の正答率は90.6%でかなり優秀な結果となった。「不問」という単語から「問題にしないこと」「問わない」といった意味を推測しやすかったためだとみられる。

問6全体の結果を見てみると正答率は67.9%であったが、やはり四問目の正答率の低さが目立つ。また、昨年度の結果では問6全体の正答率は77.3%であり、今年度は昨年度にくらべ正答率が

10%ほど低くなっている。これは、今年度と昨年度で解答の選択肢の数が違ったためであろう。昨年度は5つの問いに対し選択肢が5つとある程度消去法が使えたのに対し、今年度は選択肢が10個と倍になっており、昨年度のような消去法的な選択は難しくなったのである。現在の学生の日本語力を知る、ということを考えるのならば、これが本来の結果であろう。もし昨年度も選択肢の数が10個なら正答率は今年度の結果に近いものになっていたのではないだろうか。

慣用表現の正答率の低さには、単純な言葉の理解度だけでなく、日常生活の中で使用しているかどうかという点が大きく関わっていると考えられる。今までこのような表現を日常的に使用してこなかった、そもそも聞いて過ごしてこなかったということが、今回のこの結果につながったものと思われる。

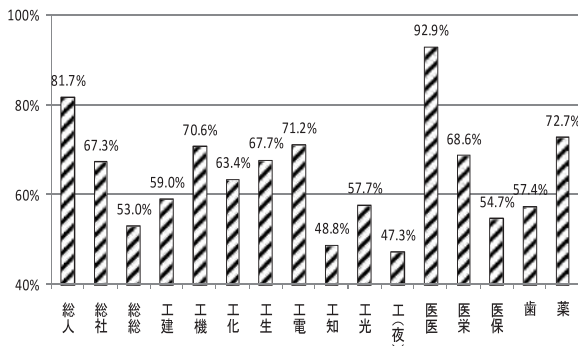


図 14 問 6-1 の結果

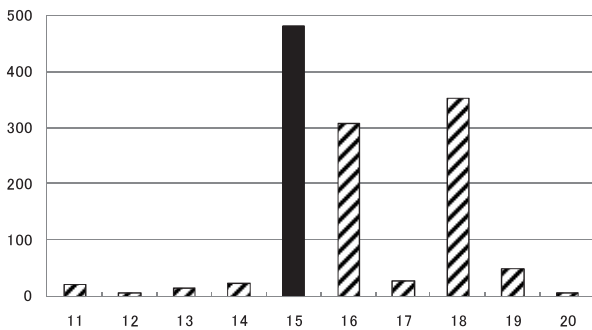


図 15 問 6-8 の結果

3.8. 問 7 類義語と対義語

この質問は、ことばの意味に関連して、類義語と対義語の意味を把握しているかどうかを問うものである。各問いの正答率は、順に 52.9%、84.4%、83.9%、66.2%、73.3%、48.5%となっている。決して難易度が高くはない設問だが、一問目と六問目の正答率が著しく低いために全体の正答率は 67.9%にとどまっている。

一問目は「安価」の類義語を選択する問題であり、正答は「廉価」であるが、半数近くが「特価」と答えた。「特価」は「特別に安い値段」という意味であるため、似てはいても類義語としては不適當である。それでもこの答えが多くなる傾向があったのは、「廉価」という語には馴染みがなく、日常目に止める機会が少ないのに反し、「特価」という語は逆に接する機会が多いためであるとみられる。

六問目は「創造」の対義語を選択する問題だが、正答の「模倣」よりも「破滅」を選択する解答者が多かった。「創造」という語の、「新しく生み出す」という側面よりも「つくる」という側面に注目した結果、「破壊」と似た印象を持つ「破滅」を選択したものと考えられる。「創造」と「模倣」の、「オリジナル」と「コピー」という意味関係を把握していなければ正答できない問題であった。

先にも述べたが、問題自体の難易度は決して高くはない。にもかかわらず類義語や対義語に正答率の低いものが出てくるということは、問題に挙げられている語、選択肢にある語の意味を正確に覚えていないということに他ならない。語彙力の不足・低下に懸念を抱くところである。

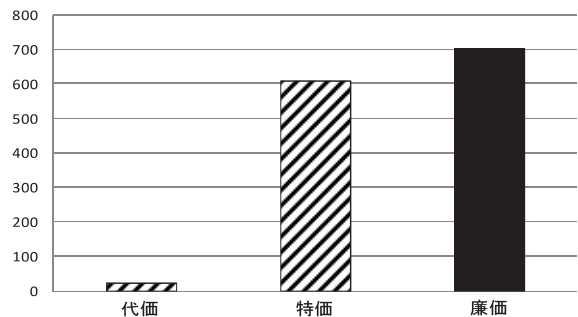


図 16 問 7-1 の結果

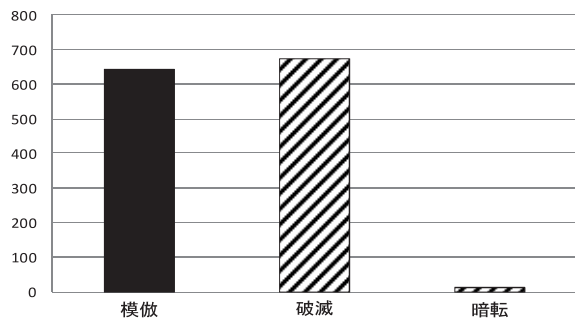


図 17 問 7-6 の結果

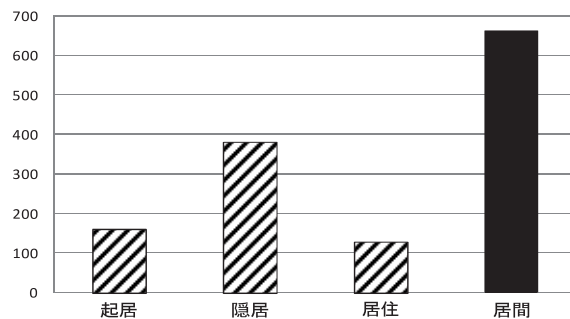


図 18 問 8-1 の結果

3.9. 問 8 熟語の構成

熟語の構成を見分ける問題である。各問いの正答率は、順に 49.7%、86.7%、91.1%、78.2%、41.7%で、90%を超えるものがあるものの、問 7 と同様、全体としては 69.5%と、正答率は 70%に満たなかった。これは一問目と五問目の解答が散らばったことによる。

一問目は「食卓」と同じ構成の語を選択するというもので、一文字目が二文字目を連体修飾する関係となっており、正答は「居間」である。正答の次に多かったのは「隠居」であるが、これは「隠れて居る」という意味で、一文字目が二文字目の表す行為を連用修飾しているために全くの間違いと言えよう。

五問目は「一攫千金」という語と同じ構成の語を選択するというもので、後ろの二字が前の二字の目的語となるという構成となっている。正答は「一望千里」で、次に多かったのは「一騎当千」であった。これは「一騎で千の敵に当たる」という意味で、訓読の順としても違うものである。

また、五問目で注目したい特徴は学科別の結果でもある。医学科、歯学部、薬学部各学科の正答率が相対的に高いこともさることながら、文系である総合科学部人間文化学科、社会創生学科の正答率が特に低いのが問題であろう。

正答率の低い二問ともに言えることであるが、解答が散らばるのは、各選択肢の語の構成がどのようなものかという理解が不十分であるからではないかと考えられる。

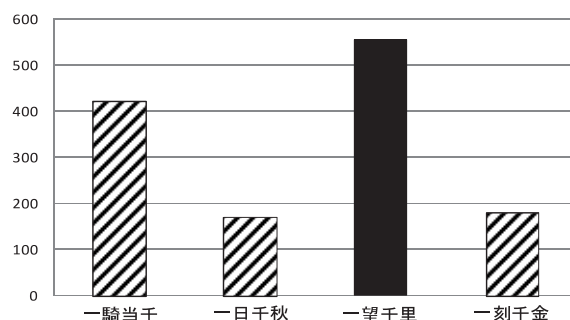


図 19 問 8-5 の結果

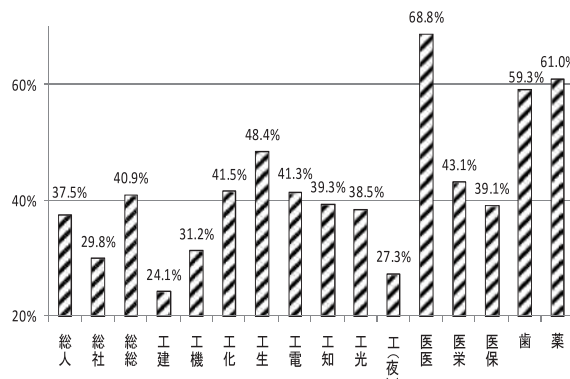


図 20 問 8-5 の結果

4. まとめ

テスト全体の正答率を学科別に順位付けすると、3年間で上位 5 学科に大きな変化はない。人間文化学科よりも医歯薬学部が上位を取り続けるという事実は、基礎学力としての日本語運用に関する知識・能力の分野において学部学科間の入学時の学力が無関係ではないことを示唆している。

2008 年度の全体正答率は 73.8%、2009 年度は 73.6%であった。今年度は 71.1%となっており、数値だけ見れば、以前と比べ正答率は落ちている。各設問ごとにみても、過去最低の正答率であるも

のも少なくなかった。

今年度は新たに問題数を増やしているため、もちろん単純に比較をすることはできない。そこで前年度までの問題 (30 問) だけで正答率を出してみると、医学部保健学科を除くすべての学科で正答率の低下がみられ、全体では 69.3% となった。問題を増やした方が正答率が高いことから、問題の増加が成績の低下につながったとは必ずしも言えないということが分かる。やはり単純に日本語運用能力の低下がみられると言えよう。

最も正答率の高い学科と低い学科の差は 20% を超え、学科間の開きは再び大きくなった。特に下位の落ち込みが激しく、工学部夜間主にいたってはようやく 60% を超えるほどの成績であった。

今回で 3 年目となった本テストであるが、年を経る毎に成績は落ち込んでおり、日本語母語話者の日本語運用能力が低下し続けるのではないかという懸念が生じる。

日本語力が大学入学後の、日常のコミュニケーション、プレゼンテーション、論文の執筆など、適切な日本語の運用のいしずえとなることは、学部学科、文理の別を問わず、間違いないところである。また、卒業時に問われる学士力や就業力において日本語力はもともと基本となる能力であることは言を俟たないであろう。

そのため、今後も継続して日本語力の測定を続けると同時に今後は本学の日本語力向上のために日本語に関する教育の内容を再検討する必要があることをここに明記しておきたい。

参考資料

- 1) 小野博ほか：日本の大学生の基礎学力構造とリメディアル教育, NIME 研究報告, 独立行政法人メディア教育開発センター, 2005.
<http://www.nime.ac.jp/journal/05-6.pdf>
- 2) 石川昌紀・矢田勉：日本語検定公式 3 級過去・模問題集 (平成 19 年度版), 東京書籍, 2007.
- 3) 岸江信介・仙波光明・堤和博・清水勇吉：日本語運用能力の向上をめざして-日本語力テストの実施-, 大学教育研究ジャーナル, 第 6 号, 徳島大学, 75-84, 2009.

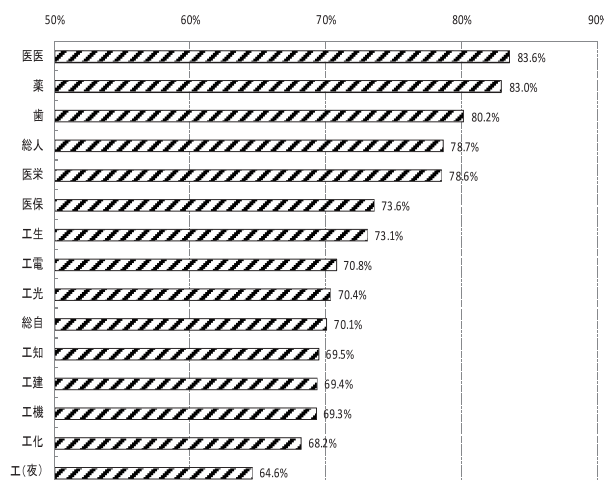


図 21 2008 年学科別正答率

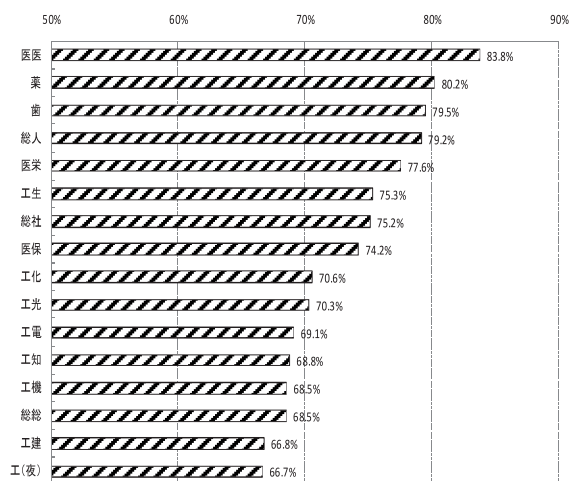


図 22 2009 年学科別正答率

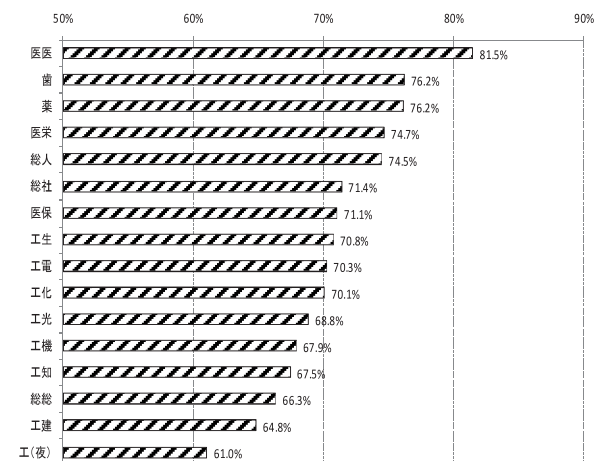


図 23 2010 年学科別正答率

- 4) 岸江信介・仙波光明・堤和博・岡部修典・清水
勇吉・坂東正康・村田真実：2009年度日本語力
テスト実施報告, 大学教育研究ジャーナル, 第7
号, 徳島大学, 159-172, 2010.

[資料]

日本語能力検定問題抜粋

問1 各文の——部分の言葉を漢字を使って書くとき、【 】内のどちらの漢字を用いるのが適切でしょうか。番号で答えてください。

一 【①荒 ②粗】

- ア 彼は、昔から金遣いのあらい男だった。
- イ ずいぶん人使いのあらい上司だ。
- ウ 細部の詰めができておらず、スケジュールの組み方があらい。

二 【①慎 ②謹】

- ア 体のこともお考えになり、酒を少しつつしまれてはいかがですか。
- イ つつしんで、お祝いの言葉を申し上げます。
- ウ 言葉をつつしみなさいと注意された。

問2 高校時代のクラス会が開催され、当時の担任だった先生が出席しました。クラス会の幹事が、先生にお礼の手紙として、次のような文章(頭語・結語・後付けなどは省略)を書きました。()に入る表現として最も適切なものを選んで、番号で答えてください。

紅葉の便りが届く季節、先生にはまもなく喜寿をお迎えになると (**ア**)、まことにおめでとうございます。
先日は、私ども三年一組のクラス会にご出席くださりまして、ありがとうございました。先生が (**イ**) とお知らせしましたもので、先生も (**ウ**) とおり、三年一組は四十八名でしたが、四十二名の諸君が出席してくれまして、幹事一同、本当にうれしく思っております。先生が、「出席をとる」と (**エ**) て、旧姓で点呼を (**オ**) ましたが、タイムスリップしたようで、とても懐かしくなりました。次の機会にもお目にかかれまして、楽しみにしております。

- ア**……① お聞きになって ② 傾聴し ③ 伺い ④ お耳に入れ
- イ**……① ご出席になられる ② ご出席くださる ③ ご出席される ④ 出席いたす
- ウ**……① 知っている ② 存じておられる ③ 存じ上げている ④ ご存じの
- エ**……① 申し上げ ② おっしゃつ ③ おっしゃられ ④ 言われ
- オ**……① なさい ② 呼ばれ ③ いたし ④ いたされ

問3 一～三の文の——部分を敬語を使って言おうとするとき、どのような言い方が適切でしょうか。適切なもの一つを選んで、番号で答えてください。

一 Tシャツのサイズは、Sにしますか。

- [①いたし ②いたされ ③なさい ④なさられ]

二 先生、ホームルームのとき先生が言った大学の説明会のことで、ご相談したいのですが。

- [①おっしゃられ ②おっしゃつ ③申され ④お話しし]

三 もう少し料理を食べてはいかがですか。

- [①いただき ②いただき ③召し上がられ ④召し上がつ]

四 【引越しを知らせる手紙の中で】

近くにおいでの際は、ぜひ一度我が家にもお立ち寄りください。

- [①拙邸 ②拙宅 ③拙屋]

五 【町内会長の自宅を、電話してから訪問して】

先ほど電話した花村です。

- ①お電話をいたしました花村です

②お電話をかけました花村でございます

③お電話をしてさしあげました花村でございます

問4 それぞれの見出しに掲げた言い方を本来の意味で使っているのはどの文でしょうか。一つ選んで、番号で教えてください。

一【敷居が高い】

- ①借金をしたままの伯父のところへ挨拶に行くのは敷居が高い。
- ②オペラを楽しんでみたいという気持ちはあるが、劇場へ行くのは敷居が高い。
- ③県下でベストエイトを目指すとなると、これは少々敷居が高い。

二【わらにもすがる思い】

- ①報告書の提出期限に間に合いそうもないので、わらにもすがる思いで課長に手助けをお願いに参りました。
- ②夫の行方が知れず困り果てたわたしは、わらにもすがる思いで、占い師のもとを訪ねた。
- ③この間、お互いわらにもすがる思いで協力し合ってきたわけだし、これからもよろしく頼むよ。

三【気が置けない】

- ①大山部長は大学の先輩だし、気が置けない関係じゃないのだから、相談してみたらどうかな。
- ②あいつは腹の中で何を考えているのか分からない男で、全く気が置けない。
- ③岸田君とは小学校以来の付き合いで、今でも気が置けない間柄なんです。

四【二の足】

- ①そのとき、わたしは、突然後ろから二の足をつかまれて引き戻された。
- ②一度攻めても、早く二の足を出さないと攻撃がとぎれてしまう。
- ③あまりにうますぎる話なので、誘いに応じるのに二の足を踏んだ。

五【気が多い】

- ①僕の父は気が多くてね、やたらにいろんなことをやりたがって困る。
- ②友人の中野君は気が多いから、どんな頼みでも引き受けてくれるんだ。
- ③わたしの弟は気が多くてけんかばかりしてくるから、母は心の休まるときがない。

問5 一～五の文の()に入る言葉として適切なものを一つ選んで、番号で教えてください。

一 パソコンの機能は、携帯電話でもおおむね()可能になった。

- [①代置 ②代行 ③代替]

二 派内の最大グループの票が確実となれば、相手陣営の()を押さえたも同然だ。

- [①手首 ②のどくび ③みぞおち]

三 ベンチャー企業を起こしたこの女性によれば、月に三百万円は()稼ぐという。

- [①余裕で ②存分に ③優に]

四 あんまりわたしを頼ってばかりいると、()ようなことになりかねない。

- [①共倒れでいる ②共倒れる ③共倒れになる]

五 ねえ、聞いて聞いて。()みたいなできごとがあったのよ。

- [①お芝居 ②絶対ありえない ③何とも変わった]

問6 一～五の太字で表した言葉は、特定の動詞と結び付いて用いられることが多いものです。結び付く動詞を選んで、①～⑩の番号で教えてください。一つの動詞は、一回しか使えないこととします。また、特定の動詞と結び付いた——部分の言い方が表す意味を、⑪～⑳の番号で教えてください。

一 何かと**物議**を_____

二 与党と**論戦**を_____

三 誤解を解くため**弁明**に_____

四 交渉の中で**言質**を_____

五 過去は**不問**に_____

- ①努める ②曇む ③交わす ④振るう
⑤囲む ⑥取る ⑦醸す ⑧預ける
⑨張る ⑩付す

- ⑪やむをえない理由などがあつたことを説明すること
- ⑫異なる考えを持つ者がそれぞれの立場から論じ合うこと
- ⑬世間の議論や批判を引き起こすこと
- ⑭取り立てて問題にしないこと
- ⑮証拠になる言葉を得ておくこと
- ⑯後で自分の不利益にならないよう前もって手を打つこと
- ⑰それまで従わせられてきた相手に背くこと
- ⑱自信のありそうな様子を言動に表すこと
- ⑲他人より早く物事に着手すること
- ⑳世間の注目になること

問7 【 】に記されている言葉に対して、一～三は意味の最も類似した語（類義語）を、四～六は対照的な意味を表す語（対義語）を選んで、番号で答えてください。

《類義語》

一【安価】

[①代価 ②特価 ③廉価]

二【遺憾】

[①残念 ②観念 ③失念]

三【食客】

[①居候 ②鈍物 ③浪人]

《対義語》

四【高尚】

[①低級 ②卑俗 ③凡庸]

五【統一】

[①分解 ②分別 ③分裂]

六【創造】

[①模倣 ②破滅 ③暗転]

問8 一～五の【 】内の熟語と同じ構成（組み立て）のものを選んで、番号で答えてください。字と字の意味的な関係を考えて答えてください。

一【食卓】

[①起居 ②隠居 ③居住 ④居間]

二【急襲】

[①連打 ②投球 ③攻守 ④守備]

三【脱帽】

[①死亡 ②混紡 ③防風 ④暴挙]

四【非常識】

[①無神論 ②不適格 ③未開地 ④否定的]

五【一攫千金】

[①一騎当千 ②一日千秋 ③一望千里 ④一刻千金]

解答用紙と解答

解答用紙

学部・学科	学部	学科	性別
-------	----	----	----

問1

一	ア ①	イ ①	ウ ②	二	ア ①	イ ②	ウ ①
---	-----	-----	-----	---	-----	-----	-----

問2

ア	③	イ	②	ウ	④	エ	②	オ	①
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問3

一	③	二	②	三	④	四	②	五	①
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問4

一	①	二	②	三	③	四	③	五	①
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問5

一	③	二	②	三	③	四	③	五	①
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問6

一	⑦・⑬	二	③・⑫	三	①・⑪	四	⑥・⑮	五	⑩・⑭
---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----

問7

一	③	二	①	三	①	四	②	五	③	六	①
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問8

一	④	二	①	三	③	四	②	五	③
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---